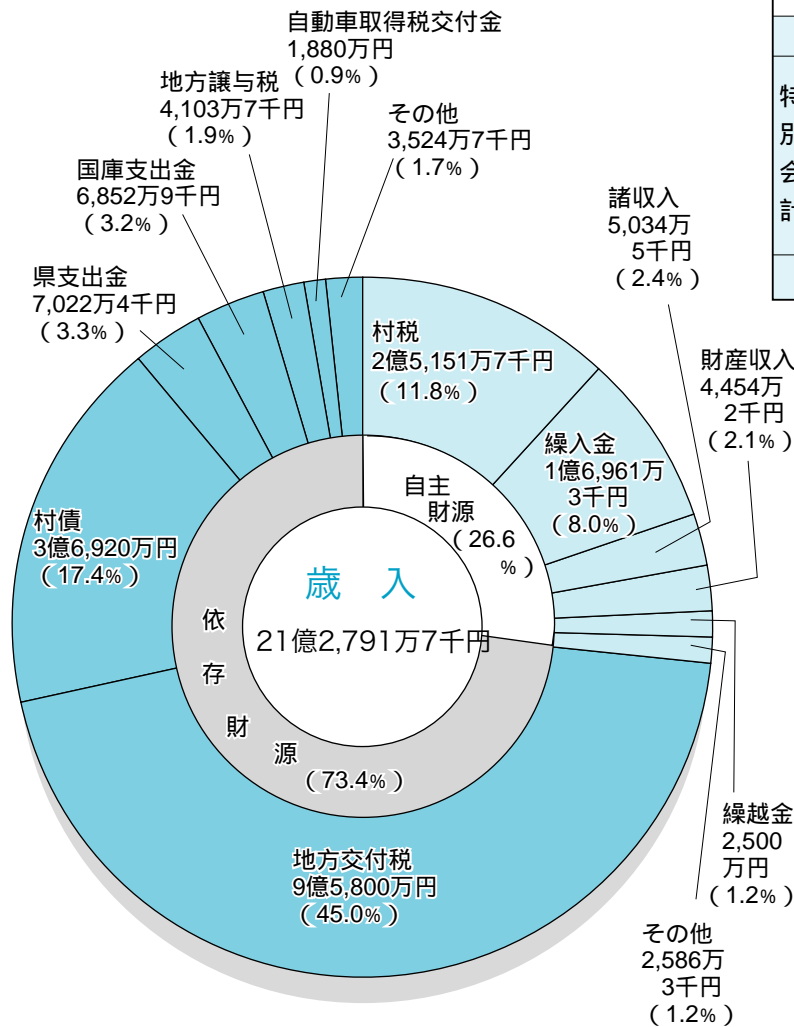


会計別予算額

	予算額	伸率(%)
一般会計	21億2,791万7千円	▲ 9.9
特別会計	国民健康保険	1億9,240万円 ▲ 6.2
	老人保健	2億3,550万円 4.6
	簡易水道	8,420万円 49.3
	農業集落排水	6,530万円 8.8
	小計	5億7,740万円 0.3
総計	27億531万7千円 ▲ 7.9	



歳入

地方交付税45%

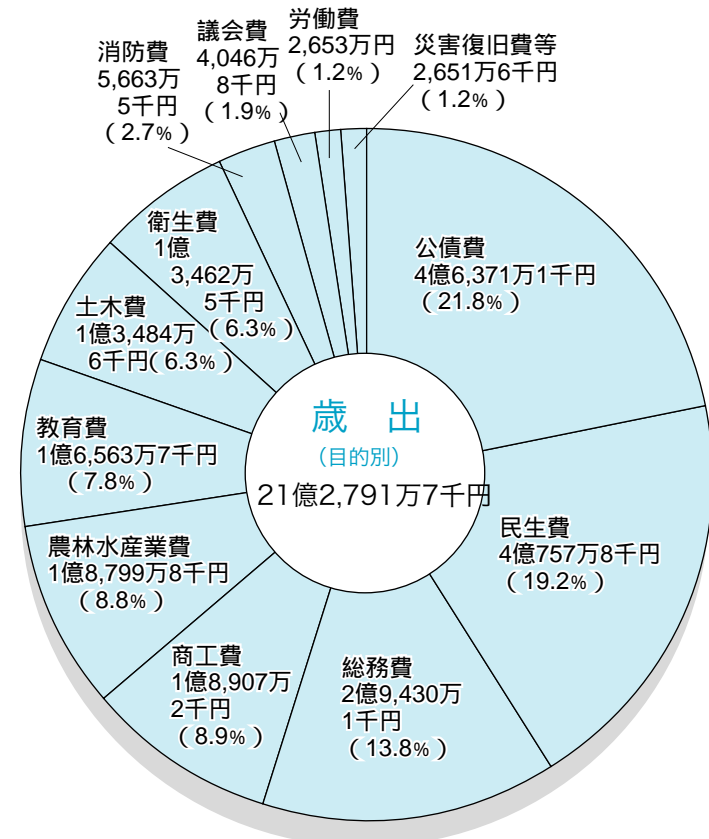
歳入は、地方交付税が前年度に比べ3500万円の減額になったものの9億5800万円です。全体の45%を占めているほか、村債(村の借金)が3億6920万円と同17%、そのほか県や国庫支出金、譲与税や各種交付金など依存財源が4分の3余りを占めています。

自主財源は4分の1余りで、

全体の11.8%を占める村税は2億5151万7千円。内訳は固定資産税が約1億7100万円、村民税が4670万円余り、入湯税が約2280万円、たばこ税が635万円、軽自動車430万円などとなっています。このほか繰入金(基金の取り崩し)1億6961万3千円、諸収入5034万5千円、財産収入4454万2千円などで占められています。

歳出

民生費が大きな比重



歳出では、公債費(借入金の元利償還金)が4億6371万円余りで全体の約22%を占めているほか、昨年度から保育園の建設工事が行われている関係で、民生費(児童福祉費)も4億757万8千円と大きな比重を占めています。

このほか木曾町の庁舎建設負担金を計上した総務費、そば工場自動製麺機整備や木曾馬の馬車道整備、村営住宅建設などを予定している商工費なども大きなウエイトを占めています。また、昨年度に比べ高い伸びを示しているのが土木費や農林水産業費です。これは村道の新設改良費や農業振興のための備品購入費(コンバイン、乾燥機)などが伸びたためです。

このほか主な事業については次ページで紹介いたします。